様式第２（第５条関係）

会議録

１　附属機関の名称
　　犬山市総合計画審議会

２　開催日時
　　令和８年８月 28 日（金）　午後５時 00 分から午後６時 30 分まで

３　開催場所
　　犬山市役所　５階　501・502・503 会議室

４　出席した者の氏名（順不同）
（1）　委　　員　増田　修治、鈴木　伸太郎、髙木　克典、紀藤　秀夫、安田　一生、澤田　直人、
　　鈴木　誠、水内　智英、鈴木　温、関谷　みのぶ、松浦　恵子、酒向　和美、
　　佐曽利　吏佐、藤本　雅己、武井　孝国

（2）　執行機関　原市長、井出経営部長、古田企画広報課長、大澤企画広報課長補佐、浅野企画広報課統括主査、橋詰企画広報課主事

５　議題
　（ア）報告
　①市民アンケート調査結果について（調査結果概略の報告）
　②まちづくりに関する市民の意見聴取結果について
　（イ）協議
　第６次犬山市総合計画後期基本計画（素案／第一次案）について

６　傍聴人の数
　　０人

7　内容

（1）開会

事務局（古田）	皆さんこんにちは。 本日はお忙しいところ、定刻にご参集いただき、誠にありがとうございます。 ただいまより「令和８年度第２回犬山市総合計画審議会」を開会させていただきたいと思います。 この犬山市総合計画審議会は、犬山市総合計画審議会設置条例第２条に基づき、総合計画に関し、市長の諮問に応じて必要な調査審議を行うために設置するものでございます。 これに基づきまして、今年６月に開催しました第１回会議におきまして、第６次犬山市総合計画後期基本計画の策定について、総合計画審議会の意見を求める旨の諮問をさせていただいております。 本日の会議は、犬山市から皆様に、新たに総合計画審議会委員として委嘱をさせていただいた以降、初めての会議となります。 ここで、会議の開会にあたりまして、犬山市長よりご挨拶を申し上げます。

（2）あいさつ

市長	皆さん改めましてこんにちは。 お忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。 ２回目の総合計画の審議会になります。 この中には、４名の方に新たに加わっていただきながら、総合計画の改定に向けてご一緒いただきますので、改めてよろしくお願いを申し上げます。 前回もいろいろお話申し上げたので、あまり長くならないようにしたいとは思っていますが、言うまでもなくこの総合計画は私たち犬山市にとっての最上位計画であります。 これからの犬山の未来をどうしていくのかっていう道しるべになりますし、道しるべを決めて、どう行動していくのかということをこの中に盛り込み、その達成のためにどうチェックしていくのかっていうことをすべて網羅しているのがこの総合計画です。 まさに犬山の羅針盤であります。その羅針盤である、この総合計画の中間見直しを令和９年度から 12 年度の間の犬山のこれからの新しいまちづくりとして、皆さんにご相談申し上げながら、作り上げていくものでありますので、どうぞご指導いただきますようによろしくお願い申し上げながら、皆さんの熱い思いをこの総合計画の中に入れつつ、これからの犬山づくり、人づくり、まちづくりにつなげていきたいというふうに思っていますので、よろしくお願いを申し上げます。 今日は住むまち、そして女性をキーワードにこれから考えていきたいまちづくりの、市民の皆さんの思いを引き出すために、アンケートをとってきましたので、そのアンケートについてお話、説明をさせていただいたり、あと、タウンミーティングを実施してきました。 もっと言うと今、子どもの権利条例も策定中ではあるんですけれども、やはり子どもがどう考えているのか、子どもたちの思いも聞こうよっていうことで、中学校の子どもたちにもいろいろと声を聞かさしてもらいましたので、そうした様々な報告を申し上げながら、次につなげていきたいというふうに思っています。 この総合計画の審議会は計４回です。今回で２回目でありますので、そのような

	流れで進めていきたい、そのような思いで作り上げていきたいというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願いを申し上げて、まずは冒頭開会にあたっての挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。終わります。

（3）委嘱状交付

事務局（古田）	続きまして市長より委嘱状を交付させていただきます。 市長が皆様のもとにお伺いいたしますので、誠に申し訳ございませんけれども、その際はその場でご起立をお願いしたいと思います。 よろしくお願いいたします。 ～委嘱状交付～ 皆さんありがとうございました。 それではここからの進行を市長により執り行わせていただきます。市長よろしくお願いいたします。

（4）自己紹介

市長	それではここから進行を務めさせていただきますので、改めてよろしくお願い申し上げます。 以後着座にて失礼をいたします。 それでは、まず、最初に本日の会議は委員総数15名のうち、現時点で14名出席であり、総合計画審議会条例に規定する定足数である委員の過半数に達していますので、本日の会議成立を、まずはご報告をさせていただきます。 続きまして、本会議の公開について確認をさせてください。 本審議会は、犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドライン第８条の規定により原則公開となります。 なお本日の傍聴者希望は０人であります。 審議会の決定により非公開の決定をしたいときは非公開とすることができますが、本日の会議は公開することでよろしいでしょうか。
委員全員	異議なし。
市長	ありがとうございました。 異議なしとのお答えをいただきましたので、そう対応をさせていただきます。 それでは続きまして、自己紹介をお願いしたいと思います。資料として配付しております名簿の記名順で、増田委員からお１人ずつ名前と所属の紹介をいただきたいと思います。
増田委員	犬山市議会の増田修治と申します。 犬山市総合計画審議会、どうぞよろしくお願いいたします。
鈴木（伸）委員	増田委員と同じ、犬山市議会の鈴木伸太郎と申します。 よろしくお願いします。
髙木委員	髙木克典と申します。 農協で今、理事をさせていただいております。そちらの方からの所属でやって参りました。 今後ともいろいろと分からない点の方が多い自分ですが、よろしくお願いいたします。

紀藤委員	犬山市社会福祉協議会の会長を務めております紀藤といいます。 よろしくお願いいたします。
安田委員	犬山商工会議所副会頭の安田と申します。 よろしくお願いいたします。
澤田委員	一般社団法人犬山青年会議所の澤田直人と申します。 どうぞよろしくお願いします。
鈴木（誠）委員	豊橋から参りました愛知大学の地域政策学部の鈴木誠と申します。 どうぞよろしくお願いいたします。
水内委員	京都工芸繊維大学の未来デザイン・工学機構の水内と申します。 よろしくお願いします。
鈴木（温）委員	名城大学の鈴木温と申します。 専門は都市計画です。よろしくお願いします。
関谷委員	名古屋経済大学の関谷と申します。 どうぞよろしくお願いいたします。
松浦委員	犬山市協働プラザを運営しております一般財団法人地球子ども村の松浦恵子と申します。
酒向委員	いぬやま e-コミュニティーネットワーク酒向と申します。 どうぞよろしくお願いいたします。
佐曽利委員	犬山市教育委員会教育委員の佐曽利と申します。 どうぞよろしくお願いいたします。
武井委員	今回公募委員として参加させていただいております。 平素は犬山城下町にあります愛知北エフエム放送の放送局で従事しております武井孝国と申します。
市長	ありがとうございました。 それでは改めまして、よろしくお願いを申し上げます。 事務局の紹介につきましては、この後、議事の説明の折などを通じて行わせていただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

（5）会長・副会長選出

市長	続きまして、犬山市総合計画審議会設置条例第４条に基づき、会長及び副会長の選出を行わせていただきます。 総合計画審議会条例の規定により、会長及び副会長は委員の互選により決定することになっていますが、どなたかご発言はございますか。 （挙手） 松浦委員。
松浦委員	はい。 今年度改訂する総合計画の内容に関係ある総合戦略の改訂にも令和６年度から携わっておられ、今年度６月に開催されました第１回の会議から継続した審議となりますので、会長は鈴木誠委員、副会長には水内委員、紀藤委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
市長	ありがとうございます。 ただいま、会長には鈴木誠委員、副会長には水内委員と紀藤委員を推薦するご発言をいただきました。 皆さんいかがでしょうか。

委員全員	異議なし。
市長	改めて異議なしのお言葉をいただきました。 松浦委員の会長、副会長案に賛同されます方は拍手をお願いいたします。 ～拍手～ それでは会長は鈴木誠委員、副会長は水内委員と紀藤委員にお願いを申し上げたいと思います。 改めてよろしくお願いを申し上げながら、私の会長の任はここまでとさせていただきますので、ここで議事の進行を交代させていただきます。 これまでのご協力に改めて感謝申し上げます。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

（６）資料の確認

鈴木会長	それではよろしくお願いいたします。 議事に入る前にまず、会議の会議録の署名者について、指名をさせていただきたいと存じます。 犬山市附属機関の会議の公開に関する要綱では、附属機関に会議録の作成と公開を義務づけております。 会議録は附属機関の長が指名した者２名以上の署名を得るということになっております。 そこで、本会議におきましては、名簿の上からの順番２名ということで、交代でお願いしたいと思いますので、本日の会議録の署名は、増田委員と鈴木伸太郎委員に決定したいと思います。 では、増田委員、鈴木委員よろしくお願いいたします。 続きまして、事務局より配布資料の確認をお願いしたいと思います。
事務局（大澤）	それでは資料の確認をさせていただきます。 資料の方につきましては事前に郵送の方をさせていただいております。 確認並びに読み上げさせていただきます。 次第、委員名簿、会議の開催にあたってのご案内、資料１ 市民アンケート調査結果について（調査結果概略の報告）、資料１－１ 第６次犬山市総合計画改定に向けた市民アンケート調査報告書【概略版（速報）】、資料１－２ 市民アンケート調査票、資料２ まちづくりに関する市民の意見聴取結果について、資料２－１ タウンミーティング等の実施結果概要、資料２－２ 市民を対象としたタウンミーティング意見一覧、資料２－３ 中学生を対象とした未来ミーティング意見一覧、資料３ 第６次犬山市総合計画後期基本計画（素案/第一次案）について、資料３－１ 犬山市総合計画後期基本計画見直しの考え方、資料３－２、序論（素案）こちらの後ろにＡ３の新旧対照表ものっております。ここまでが資料３－２、続きまして資料３－３ 犬山市総合計画後期基本計画（素案）こちらがＡ３でお配りした資料になります。 この他に、本日、机の上にグループワークの割り振り名簿と、あと紙ファイルが置いてあったかと思います。 第１回からまた、今後続く、審議会においても、資料の量が多くなると思いますので、本日ファイルの方を配布させていただきました。

	もし審議会の間に穴開けたいという方がいらっしゃれば、後ろに穴あけるパンチを用意してありますので、またお使いいただければと思います。 資料の不足やお手元にない方がいらっしゃいますでしょうか。 また本日、第６次犬山市総合計画の冊子をお持ちになってない方がいらっしゃいましたら、今から渡しに参りますので、挙手いただければと思います。 皆さんよろしいですか。
事務局（古田）	資料の確認をさせていただいたところで１点資料の訂正をさせていただきたいと思います。 改めまして、企画広報課の古田と申します。よろしくお願いします。 犬山市総合計画審議会委員名簿をご覧いただけますでしょうか。 下から５番目、松浦委員のところですけれども、今回の委嘱させていただくにあたりまして、ジョインいぬやまの代表団体ということではなく、一般財団法人地球子ども村の代表理事ということで、市民交流センター協働プラザを管理、運営いただく団体ということで委嘱をさせていただいております。 従いまして、ジョイン犬山代表団体という文を削除していただくようお願いしたいと思います。申し訳ございませんでした。

（７）議事（報告）

鈴木会長	それでは本日の次第に従って、会議の方を進めて参りたいと思います。 ちょうど５時に始まりまして今 20 分少し経過しております。 今日の会議は、概ね１時間半程度ということになっておりますので、この時計でいきますと６時半を目途に終了させていただきます。 ご理解の方よろしくご協力お願いいたします。 またですね、議事の後半で予定しています協議では２つのグループに分かれて、皆様から意見をいただいたり、今後の取り組みに対する提案をいただこうと思っております。 限られた時間になりますけれども、皆さんの積極的なご発言や、円滑な進行にご協力いただけるようにお願いしたいと思います。 それでは報告の１番目、①市民アンケートの調査結果について調査結果概略の報告こちらの方は、事務局から委員の皆様方に説明をいただきます。 よろしくお願いします。
事務局（大澤）	それでは報告１、市民アンケート調査結果調査結果（調査結果概略の報告）について説明をさせていただきます。 企画広報課課長補佐の大澤です。よろしくお願いいたします。 まず資料１をご覧ください。 犬山市では、今年の６月 30 日から７月 22 日までの期間で、「これからの犬山市におけるまちづくり」に関する市民の意識や関心、実情などを把握し、後期基本計画に反映させること、第６次犬山市総合計画の進捗管理に活用することを目的に市民アンケート調査を実施しました。 対象者は、犬山市内に住む 18 歳以上の市民で、年齢、性別、居住地区の割合に応じた無作為抽出で 3,000 人の市民を対象にアンケートを送付いたしました。 その調査票につきましては、資料の１－２になります。 アンケート回収数につきましては、７月 31 日までの到着分で半数を超える 1,658 票、回収率は 55.3%という結果でした。資料１－１、第６次犬山市総合計画改定に

	向けた市民アンケート調査報告書をご覧ください。 まず、３ページ、４ページをご覧ください。 こちらアンケート調査内容は、大きく区分して７つの項目に区分しています。 ３ページ４ページには、この７つの項目に関し、代表として簡単にまとめさせていただいております。 続きまして、５ページですけれども、第６次犬山市総合計画で設定されている達成指標について、今回のアンケートで 10 項目について質問をしております。 計画策定時の割合と現状値、今回調査した結果の割合について確認することができます。 上昇傾向にある項目につきましては、「基本目標１　誰もが育ち、楽しみ、活躍できるまちへ」において、全項目の「子育てをしやすいまち」「生涯学習活動が盛んなまち」「スポーツする環境が整ったまち」「歴史を大切にし、文化財が保存活用されたまち」こちらの回答の割合が上昇しています。 また、「基本目標３　人にも地球にもやさしいまちへ」においては、「市内での買い物が便利なまち」、「住環境が整備されたまち」「道路や橋などのインフラが適切に管理されたまち」「公共交通が便利なまち」、「自然環境が、大切に保全されていると感じている市民の割合」こちらの５項目が上昇していますが、「安全・安心を実感し、心豊かに暮らしている市民の割合」については下降しています。 続きまして、６ページから 10 ページにつきまして、回答者自身のことについてや家族構成についての集計を載せています。 続きまして、11 ページ以降は今回のアンケート結果のほか、第６次犬山市総合計画策定時と同様にアンケート調査を行った際と同じ質問項目の場合は、同ページ、もしくは次ページに令和３年度調査結果と今回の結果が対比できるよう掲載しております。 続きまして、少しクロス集計についてご説明をさせていただきます。 今回送付させていただいた「議事の進め方」の７番目、８番目に記載させていただきました、クロス集計について、ちょっと戻っていただく形になるんですけど、資料の 42 ページをご覧ください。 このページの上部には、問 57 の各項目から３つまで選択した単純集計結果を掲載しています。下段については、この問 57 の集計結果に、どの地区の人がどの回答をしているかという条件を追加し、地区ごとに問 57 の回答結果が集計されています。このように複数個の条件を付して集計するものがクロス集計というものになります。 このため例えば、17 ページの問８これからも犬山市に住み続けたいと思いますかという質問があるかと思うんですけれども、この質問に男性女性というクロス集計もできますし、さらに複合的に、例えば、50 代未満の男性、50 代未満の女性もしくは 60 歳以上の男性、60 歳以上の女性の回答がどうであったとか、そういった集計をすることも可能になります。 ただし、３つ以上の条件となると集計結果も非常に膨大になりますのでこちらの方は注意が必要になります。 以上、こういったこともできますというご紹介とともに説明をさせていただきました。 あと残りの単純集計しているものにつきましては、非常に量も多いものですから、こちらの今の集計結果は、掲載の通りになりますので、説明は割愛させていただき

	ます。 説明の方は以上です。
鈴木会長	ありがとうございました。 今日に合わせて事務局の方も急いで資料の方を用意してくれたということですから、内容の分析等はこれからということですので、そのあたりはご配慮いただければというふうに思います。 とは言っても、事務局の今ざっと説明してくれましたけれども、内容について確認されたいことがあったら、挙手をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。 それから、事前配付した資料にも記載があった通り今後、詳細な集計を行うということで詳しく細かく確認してみたいとか、こんな項目が知りたいとか、そういう希望のようなことでも結構ですけども、何かあったらこの際にご紹介いただいても結構ですが、いかがでしょうか。 また、後でグループに分かれて、自由にご発言いただきたいと思いますので、ひとまずよろしいでしょうか。 ありがとうございます。 それでは、報告の２点目まちづくりに関する市民の意見聴取結果について、こちらの方は事務局からご説明をいただこうと思います。 よろしくお願いします。
事務局（浅野）	報告②まちづくりに関する市民の意見聴取結果について説明させていただきたいと思います。 私、犬山市役所企画広報課、企画担当の浅野と申します。 よろしくお願いいたします。 まず資料２をご覧ください。 総合計画後期計画を策定するにあたり、市民をはじめ、特に今回で言うと若年層の意見・提案を計画に反映し、施策の方向性などの検討に活かすことを目的に、いくつかのタウンミーティングを実施しました。 まず、市民を対象とさせていただいたタウンミーティングにつきましては、令和８年７月 25 日土曜日、26 日の日曜日の２日間開催させていただきました。25 日と 26 日ともに市民の方 23 名の方が参加していただきました。 参加いただいた市民の年齢を１人１人お聞きしているわけではないので、かなり感覚的な話になってしまうのですが、25 日の土曜日に関しましては、下は高校生の若い方から上の方は 70 歳代程度の方までおられましたので、平均するとおおよそ 50 歳代が平均値かなと思っております。 26 日の日曜日の方ですが、こちらも高校生の方もお見えになったりしまして、平均しておおよそ 40 歳代ぐらいの年齢層の方がタウンミーティングにご参加いただいたかなという感覚を持っております。 また、中学生を対象として「未来ミーティング」と題してミーティングを実施し、市内には４中学校がありますが、南部中学校、東部中学校、犬山中学校の３校で実施させていただきました。城東中学校に関しては３年生を対象として、夏休み明けの９月から 10 月に実施予定になります。 未来ミーティングの参加人数は、南部中学校２年生 120 人、東部中学校の３年生が 95 人、犬山中学校は有志を募らせていただきまして、夏休み期間中に 17 人の生徒に参加していただきました。 続いて、資料２－１をご覧ください。

	7月 25 日の土曜日と 26 日の日曜日に開催したタウンミーティングの実施内容としましては、まず個人ワークで「犬山の好きなところ」「こんな犬山だったらいいな」「犬山がこうなったらいいな」という意見を付箋に書き出していただいて、その後、個人ワークで出た意見を用いて市民同士グループワークでの意見交換を行いまして、最後に市長との車座トークにて直接対話を行いました。タウンミーティングの中では、昨年度作成した総合戦略ワークブックの中から暮らしたいまち、活躍したいまち、訪れたいまちの意見についても回答していただきました。 タウンミーティングの中で出た意見を、市民アンケート項目の選択肢をもとに分類したところ、まず「暮らしたいまち」について出た意見の件数が多かったものとしては「地域に暮らす人が助け合うきずなづくり」が 24 件、「公共交通の利便性向上」が 12 件、「住みやすい・利便性が高いまち」が 11 件となりました。 次のページになりますが、「活躍したいまち」については、「地域に暮らす人が助け合うきずなづくり」が 20 件、「地域活動・仕事・学びに挑戦しやすいまち」が９件となりました。 最後に「訪れたいまち」については、「歴史遺産・文化財・観光施設を活かしたまち」が 21 件、「地域のおもてなしの心」が 21 件となりました。 中学生対象の未来ミーティングでは、南部中学校では「私たちの住むまちをもっと豊かに！」をテーマに、気になる課題について解決方法の提案をしてもらい、東部中学校と犬山中学校では、「生活者としての視点」や「未来の市民としての視点」を引き出し、「こうあってほしいまちの姿」を聞き出しました。３つの中学校から出た主な意見としましては、「歴史遺産・文化財・観光施設を活かしたまち」「店舗や商店の誘致による商業の振興」などが共通して意見の件数が多いものとなりました。 資料２−２、２−３の出た意見一覧については、掲載のとおりになりますので説明は割愛させていただきます。 説明は以上になります。
鈴木会長	ありがとうございました。 それでは、皆さんの方から何か確認いただきたいことがあったらと思いますけど、特に資料の２の方、こちらの方はあとでまた基本計画の素案についてグループワークしていく中でも活用するということですね。 では、今の説明について何か委員の皆さんの方からご質問とか、あるようでしたらお願いしたいと思いますが、挙手をしていただければと思います。いかがでしょうか。

（８）議事（協議）

鈴木会長	それでは続きまして、協議事項の第６次犬山市総合計画後期基本計画（素案/第一次案）こちらの方事務局から委員の皆様に説明をお願いしたいと思います。 よろしくお願いします。
事務局（大澤）	それでは協議事項、第６次犬山市総合計画後期基本計画（素案/第一次案）について説明させていただきます。 資料３をご覧ください。 第６次犬山市総合計画後期基本計画については社会情勢の変化や各種統計データ、市の各課での取り組み、先ほど報告させていただきました市民アンケート調査、タウンミーティングや未来ミーティング等の市民意見を踏まえて内容の修正、追加、削除を行って策定していきます。

	関連する資料としては、資料３−１から資料３−３を交えて説明をさせていただきます。資料３－１では前期基本計画から後期基本計画へ変更するポイントや考え方について整理しています。それぞれの施策における現状、課題、取組の方向性、こちらについて、社会情勢の変化や各種統計データ、指標の達成状況、市民アンケート調査結果、タウンミーティング等の意見聴収から見直しを行っていきます。 今回案として提示さしていただいているものにつきましては、社会情勢の変化と各種統計データ、指標の達成状況と関係課の照会、こちらを経て作成の方をしております。 見直し例として、下段に「施策３−１住環境・インフラ」の下水道整備について掲載しています。 資料３−２の序論については、第６次犬山市総合計画策定時から変化した社会情勢や最新の統計調査結果を追加しています。追加や変更をした社会情勢や理由につきましては、社会情勢については資料３−２最後尾のＡ３刷りの新旧対照表でご確認いただければと思います。修正箇所につきましては赤文字で表示しています。 続きまして、資料３−３につきましては、後期基本計画の素案を示させていただいています。この資料の説明につきましては、資料３と今お知らせしました資料３−３を照らし合わせてご確認いただければと思います。 資料３の１ページ下段以降について、こちらが資料３−３で修正した内容について、まとめているものになります。一例でお話をさせていただきますと、資料３−３、10 ページをご覧ください。こちら左下部分に近年の物価高騰により、経済的にゆとりのない人が増加しています、という文章が書かれているかと思います。こちらが今回の社会情勢の変化により文言を変更したものになります。 資料３の１ページ表の一番上をご覧ください。変更箇所に（変更前）新型コロナウイルスの感染拡大による景気後退や雇用状況の悪化により、経済的にゆとりのない人が増加していますと記述しています。 前期基本計画策定時はコロナ禍による社会の変化が大きく影響を受けた時期でした。現在は国際的な紛争や情勢の不安定によるエネルギー価格の高騰などの影響により物価高騰が問題になっています。このような要因を加味して変更後（案）に修正しています。ハッチングの部分が変更理由になっています。 このように資料３では、変更箇所については、「社会情勢や課題への対応によるもの」、「時点修正」、「市の取組内容や取組進捗による修正」、「重点事業の完了や進捗状況による削除・変更」と４つの要素にグルーピングしてまとめていますので、資料３−３と対比しながら見ていただければと思います。 こちらも非常にちょっと量が多いですから、今ひとつのサンプルだけお話させていただきましたけど、そういった見方をしていただければという形で説明を終わらせていただきます。
鈴木会長	ありがとうございました。 今日この内容については、この後グループワークでご自身の関心領域について意見交換していただきますけれども、ひとまず全体について何かご確認されたいところとかあるでしょうか。 それではこの後、２つのグループに分かれて意見交換の方をさせていただこうと思います。 グループと会場は、本日配付したグループワークの割り振り名簿の通り、Ａグループの方は 502 会議室、それからＢグループの方は 503 会議室、こちらに移動して

	いただくことになります。 移動の際に、お願いしたいのは、今日のたくさん資料ありますけど、こちらの資料と皆さんのテーブルのところにあるお名前の札をお持ちなって会議のところで意見交換していただきたいと思います。 今、時計の方を確認すると、ちょうど５時 43 分ぐらいということになります。 今日は６時 25 分までにこの会場に戻っていただきまして、各グループの意見交換の内容を披露していただくという形にしたいと思います。 その時には水内副会長と関谷委員にお願いしたいと思います。 実質的には40分弱の時間で意見交換を２人のファシリテーターのもとで進めていただくようにしたいと思いますがよろしいでしょうか。 それでは各グループで分かれての意見交換よろしくお願いいたします。

（９）グループワーク（Ａグループ）

水内副会長	グループＡということでざっくばらんに意見交換ができたらいいかなと思っていますので、あんまり固くないような場で、自由にご発言いただきたいと思います。 ６時 25 分までということでしたので、40 分ないぐらいなんですけど、基本的には今、いろんなたくさんの資料説明を事務局からいただいて、それらの資料に関することでも結構ですし、それから基本的には資料３－３第６次総合計画の素案、第一次案というものを見ていただくと、おそらくすべて網羅するって難しいかもしれませんけど、それぞれにご所属であるとかご専門の中でお気づきになられる点があるんじゃないかなと思っています。日頃からこういうことを考えているんですけれどもでも結構ですし、それぞれの観点からもう少しこういうふうなことがあったほうがいいんじゃないかとか、こういう観点っていうのはどうなんだろうかとか、どんなご意見でもいいですし、ご指摘でも構いませんので、自由にご発言いただいたらいいかなと思っています。 ざっくりした感じなんですけども、いかがでしょうか。ご発言ある方いらっしゃいますか。
松浦委員	はい。松浦です。どうぞよろしくお願いいたします。 素案の９ページで、全体的になんですけれども、確認なんですが、計画に載せているものは、計画で作っていて、そのあとの先は各担当課が、計画をもっと練っていくっていう認識でよいでしょうか。 例えば、福祉関係だとここに重層的支援事業ってあると思うんですけども、重層的支援事業をどういうふうにやっていくかっていうのは各担当課がやっていくという理解でいいですか。
事務局（井出）	はい。事務局への質問ということでお答えします。 総合計画ちは先ほど市長の方のお話ありましたが、市の最上位計画です。ですので、その下に個別計画って言って福祉なら福祉、或いは都市計画であったり、環境だったりといろいろ計画あるんですけども、個別計画の方によりその実施の具体的な中身が書いてあって、総合計画はもうちょっと方向性の方をメインに書いてあるので、実際の実施方法であったり、いわゆる肉付けの部分については、原課の方でっていう形になっていくもの、そういう構成になっております。
松浦委員	はい。ありがとうございます。 子どもの権利条例について、条例の制定だけでなく、制定後に子どもの権利を守り、実効性を持って運用していくための取組まで、総合計画に位置づける必要があ

	ると考えます。
事務局（井出）	はい。今回、この素案を私はたたき台って言っているんですけど、これが今から叩かれるものだと思っています。現状は、各課に今ある計画に合わせてアップデートしてください、例えば、終わったものはもう載せても仕方ないですし、変更したもので出してくださいっていう形で、修正の依頼をしています。 なくなった、終わったものとかはみんな消していけるんだけど、新しく始めたものとかこれから新しく始めていくものについては、まだまだ載っていない、足りていないというのが、我々事務局の実感です。 まさに今日こういった場で、今、松浦さんから本当にいいご意見いただいたんですけれども、今子どもの権利条例やっているじゃない、何でないのっていうようなことをいただいたら、それを我々が原課の方にフィードバックして、その書きっぷりとかも含めて、協議します。 もう１つ言うと、先ほど説明があったアンケートであるとかタウンミーティングの結果についてはまだ各課は知りません。なので、本来は、その結果を各課が見て、今こういう方向で、みんな考えているんだってことで新しい施策でこういうことやったらいいみたいな提案が出てくるといいなと思っているんです。 だから、今日のはまだ事務的な修正をしたものであって、今日の皆さんからいただいた意見だったり感想だったり提案それから、アンケート結果やタウンミーティングの結果を踏まえて、今度の会議に、もうちょっと素案ぐらいのものを出せたらいいなと思っているところです。
水内副会長	はい。ありがとうございます。他によろしいですか。
鈴木（伸）委員	アンケート結果で資料１－１の６ページを見ると、年齢で高齢者が 65 歳以上が 39.3%、アンケートに答えてくださる 1,600 何人かのうちの要は４割が高齢者、めくって８ページになると、また真ん中でお勤めなどの状況で無職は 33%とか、またためくって 10 ページになると、個人年収 200 万未満が 34.7%、200～400 万が 25.6%。 要はアンケートの結果に偏りがあるようなケース、これがどういうふうに配慮されるんだろうなと思うんですが、そこら辺はこれからどういうふうになってくるのかなというのはちょっと気になって、考慮してねという意見になるのか、どうされるのか何かあれば。
事務局（井出）	今回出させていただいたのは、まだこれ本当に分析もまだ不十分な状態でして、ほぼほぼ単純集計の数字を出しています。 なので、実際にアンケート答えた方やっぱり年齢の高い層が多いです。皆さん若い方はなかなか回答率も低いところなので、このアンケート単純集計のものが犬山の実態であることは事実ではあるんですが、それでは若い人の意見とかそれが施策にどう反映されるのっていうところは、心配してらっしゃるところと思います。ですので、それを例えばクロスかけて、30 代 40 代の方は何を望んでいるのか、何を大事に思っているのかっていうところは、かけた上で、検討していくべきだと思っています。 今、先ほど向こうでも話しましたように、こういうクロスをかけたら面白いこと出るんじゃないかであるとか、こういうこと知りたいなみたいなことがあったら、ご提案いただけると嬉しいなっていうのがあります。 まとめますと、これは生データです。生データは生データで大事ですが、これから施策を考えるにあたっては、いろんな形でデータをかけ合わせて考えていきたい

	なと思っています。
市長	でも、それでクロス集計することによって、この市全体の万遍なアンケートは結果として出るんですかっていうのが、鈴木委員の質問で、クロス集計で市全体としての水平的なアンケート結果は出るのか。年齢とかは偏りがあるじゃないですか。。
事務局（井出）	年齢は偏りがあります。それは、もう１個言うと実際の年齢の偏りがすごくある形なので、だからある意味、これは生データだと思うんです。 だけど、繰り返しになりますけども、若い方であるとか、地域もあるかもしれないですけど、ある地域とかそういったところを、ちょっと重点的に考えていかないといけないっていう話であれば、そういったところを抜き出して傾向を把握して施策を考えていくっていう形かなと思いますが、どうでしょう温先生。 一般論としてはこういった形で、例えばまちづくりとかそういうので、今は生データの状態だというふうに理解しているんですけども、そういった中で、様々な階層であるとか、集団であるとか、地域であるとか、そういった方々の意見とかもやっぱり、拾い上げていくっていうのに何か考え方とか、やり方とかありますでしょうか。
鈴木（温）委員	当然、クロス集計することによってそれぞれの階層別に見ることができると思いますし、もう少しちょっと難しい手法になると、その意見を構造化したり、そういうクラスター分析なんかをして、キャスターに分けてっていうのは、いろいろやり方はあると思いますけども、基本的にはクロス集計でよろしいかと思います。あんまり、高度なことを行う必要はないと思います。
水内副会長	若い人たちの意見をもうちょっと知りたいのであればそういうふうなクロス集計を行った方がいいっていうことですね。
鈴木（伸）委員	人口構成に沿ったような、それを考慮していただきたいなというところの意見です。
水内副会長	ありがとうございます。 今回タウンミーティングだけじゃなくて、中学校の未来ミーティングもやられているので、それちょっと質的な話かもしれませんけど、そういうところも併せて見ていくってことですね。他いかがでしょうか。
武井委員	アンケート繋がりで、3,000 人っていう人数に絞って、回答者がおよそ半数っていうところで、実際これ母数増やすことは出来ないんですか。 ７万何千人いて、そのうちの 3,000 人でっていうのが統計的にそれでどうなんだろうと思います。
事務局（井出）	それは一番いいのは、７万人にアンケート取るのが一番いいんですけども、それは現実的ではないということで、一定の傾向であるとか方向性を知るには、統計学的にこれだけの数っていうのがあります。 そういったものを踏まえて 3,000 人、犬山市の７万幾つという数字の中で、3,000 人であれば、傾向が出るということでこの人数です。
武井委員	それで、さっきのクロス集計っていうところですけど、今後やっていかれるというところで、最後の女性活躍のところなんかは、特に男女比は出ているんですけど、年齢であったらいいかなっていうのは思います。特に年齢で、この女性の考え、男性もですけど、大きく変わると思いますので、年齢の集計もあると、すごく見やすい気はしました。
事務局（大澤）	今のご意見は、男女で出しているものにプラス年齢を分けた方がいいということでしょうか。

武井委員	そうですね。そっちの方が結婚している、していないとかでも変わってくるかなというふうに思いますし。
水内副会長	はい。ありがとうございました。 それでは今の資料の１－３の説明について皆さんの方からご意見やご質問あれば遠慮なくしていただきたいのですがいかがでしょうか。 それでは、特にこれについては無いということなので、次の資料の１－４ですかね。こちらの方に移って参りたいと思います。ではよろしくお願いします。
鈴木（温）委員	内容のことについて、お話させていただきますが、私犬山市の都市計画審議会の会長を仰せつかっていて、先日、その会議があったときに、意見が出て、犬山っていうのは非常に観光で、やはり有名な町だと思いますし、今非常に外国人の方も含めて非常に観光が、盛り上がってにぎわっている、うまくいっているなというふうに思うんです。 この中でも観光のことが 17 ページに書いています。一方で、やっぱり住んでいる方の生活の利便性っていうのも考えなきゃいけなくて、観光で結構にぎわうのはいいんだけど、いろいろトラブルというか、迷惑まで言っちゃうとちょっとあれなんですけど、そういう住んでいる方と観光とうまくこうバランスをさせていくってことは重要かと思うんですけども、何かそういうことで、住んでおられる方がやっぱりちょっとこう困っているなっていうことをいろいろお聞きしたりするんですね。その辺りの観光と生活のバランスを取るみたいなことを反映できないかというふうに思って、考えてはいたんですがなかなか難しいなと。 あともう１点、19 ページのインフラのところでいくと、先日の会議では、自転車道の整備なんかも出ていたんですけども、そういった内容は今ざっと見たところ、あんまり入ってなさそうなのでそういった今までは車中心のモータリゼーションがずっと進んできたんですけども、やっぱり環境のこととか、混雑の緩和だとか、健康だとかっていうことを考えると、これから車からそういった歩行や自転車への転換っていうのも、考えていかないといけないと思いますので、そういった内容も入れていただければいいかなと思いました。
事務局（井出）	おっしゃる通りで、実は自転車活用の計画は、前期計画を作った後に、打ち出したはずなので、前期計画には載ってなかったです。つまり、今回、各課に照会したときに都市計画課が書いていないので、今日、都計審の会長から意見ありましたっていう話を伝えておきます。 観光に関しては、実は 17 ページの取組方向性の一番下のところですね。実は、鈴木先生おっしゃっていることっていうのは市でも課題になっていて、市民と観光客の共存・調和の推進っていうことで、これはもう前期計画のときからやっていて実際に観光課の職員が観光まちづくり会議みたいな形で、城下町の方の住民とのワークショップみたいなものをずっとやっていまして、これは継続してやっていくという形で一応こういう形で入れてあります。
水内副会長	はい。ありがとうございます。他はいかがですか。
酒向委員	方針ってことで、具体的なことをいうところではないということは認識したんですけども、なので、外れているかもしれないですけれども、インフラで、私長者町なんですけれど、バスがもう５時ぐらいに終わっちゃうんです。ライドシェアがあるんですけど１時間に１本、それは考えてもらっているのかな。私は今のところ車なのでいいんですけれども。 あと６ページに消費者の保護・育成ってありますけれど、相談体制を整えますっ

	て書いてありますが、皆さんどこに相談していいか本当にわからなくって、詐欺じゃないけどパソコンにポップアップされて、すごく困ってうちに電話が来て、実際ポップアップされただけみたいなんですけど、どこに行っていいか分からないって言われるんです。そういうのをもうちょっと分かりやすくとか、それから教育・育成って書いてあるから、どういう感じで育成されているのかなっていうのが。 あともう１点、４ページの施策１－２教育にある一人一台端末を活用は、具体的に何やっているんですか。子どもの言うことなので、うちプログラムでどこまで本当かどうか全部信じていいかわからないですけど、アプリを入れさせてももらえない。学校に置いとかなきゃいけないとか、これ配っている意味あるんでしょうかね。 あと、あえて言うなら、図書館の ICT 化って書いてあったんですけれど、この写真を見る部分がもう終わっているんですよね。今後何を ICT 化するんですか。それについての写真が貼ってあって、これはもう終わっているのに、これ以上何するのかなみたいなところが気になりました。以上です。
事務局（井出）	はい。ありがとうございます。 個別の話でも今みたいな意見いただいたら、現場の方には伝えた上で考えます。おっしゃったように、消費者の相談窓口を作っただけではあまり意味がなくて、そこにちゃんと誘導できたり、周知を図るようなこともしっかりやっていかないといけないなと個人的には思いましたので、そういった意見はお伝えさせていただきます。 それからコミュニティバスに関しては、個別に長者町に夜増やしてみたらとは書けないとは思いますが、おっしゃったように、これから運転できなくなる方、高齢なって、そういった方に対して、そういった移動の自由というかそういう足の部分を充実していく必要があるみたいなことは、書き方としてはあるかなとは思います。受け止めさせていただきます。
澤田委員	一般社団法人犬山青年会議所の澤田と申します。よろしくお願いいたします。 私は今 37 歳でありまして、子どもが実は４人おります。まだまだ上が小学校２年生と下は１歳でございまして、まさに若者世代ではあると思うんですけども、先ほど言っていたように若者からの回答が低いというところはあって、若者からやはり声を聞きたいということは多分、今伝わってきてはいると思うんですけども、その若者から、どう回答を得るかっていう、具体的に何か進めてらっしゃることがあるのかってことをお聞きしたいです。 あと、自分自身若者として思うのは、やはりその住むまち犬山ということを掲げるならば、やはりどうしてもショッピングモールとか、何か娯楽的なもの、そういったものが何か少ないように感じるんですね。 それはもちろん歴史伝統という中で重んじるところがあってなかなか誘致できないというところもあると思うんですけども。やはりそういうところがないと、なかなかその若者は住みたいというふうに思わないかなと、実感として思うところであって、何か昔、道の駅や何かできるって話もそこまでちょっと頓挫したという話を聞きました。そこのところに例えばイオンとか、そういうのも誘致しているようなことも聞きましたけども、結局それも話が流れたのか、何か聞こえてこなくなったというふうにも思います。 この新市街地の形成と買い物等の利便性の向上ということがあるんですけど、何かこの具体的な話が進んでおるのかっていうことをちょっとお聞きしたいと思います。

事務局（井出）	道の駅の計画は白紙になり、そこを国道 41 号線の６車線化ということもあり、ポテンシャルがある土地であることは事実です。 なので、そこを今市街化編入っていう、ちょっと専門的なことなんですけど、簡単に言うと家や店が立つような地域にしようという動きがあります。やり方は、区画整理、組合施行という、その土地の所有者たちの方が、みんな一致団結して、区画整理という手法でやることで、今そこは市の都市計画課の職員が入って順番にやっている状況なんで、なくなったわけではなく、進んでいるという認識でおります。 若者の意見を、聞くっていうのは本当にいろいろなチャンネルを作らないといけないと思っていまして JC の方々の意見を聞いたりであるとか、或いは本当はタウンミーティングとかでも、若い方々、我々もいろいろ声をかけているんですけども、なかなか忙しいとかで来てくれないんですけども、そういったところでも、来ていただくと意見を我々も吸い取れるんで施策に反映しやすいなというふうに思っています。そういったところもちょっと、協力お願いできたらと思います。
水内副会長	あと残り 15 分ぐらいなんですけど、必ずしも具体的なものはさすがにここからは読み取りづらいのでちょっと個別の質問になりがちなんですけど、これによらずとも、皆さんが今後４年間の計画ですので、ここに載ってなくてもいいと思うんですけど、もっとこういう観点必要なんじゃないかとか、こういうことに注目するともっとこの４年間で良くなるんじゃないのっていう、実感に根ざしたようなご意見でも結構ですけど、そういう観点から、例えば、先ほど娯楽的なものが少ないんじゃないかなとまたアンケートの中でも、そういうショッピングモール欲しい欲しいと書かれていて、それをどう受け取ったらいいのかなっていうのも正直あると思うんですけど、でも、そういうことがおそらく重要なんだろうなと思うので、何かその生活されているとか、それぞれの仕事の中で感じられていることでいかがでしょうか。
澤田委員	犬山ってどうしても何かイメージとして、何か誘致しづらいといいますか、なんかそういう、例えばショッピングモールとか、娯楽施設だとか、なんかそういう規約というか、何か条例というか、何かそういうものがネックになっているっていうことはあるんでしょうか。
事務局（井出）	犬山は市街化区域って言って、さっき言ったいろいろこういう建物が建つっていう区域が分断しているとか、地域全体の中では偏った部分にあるんですね。皆さんがあそこやればいいのにと思われるような田んぼのところっていうのはみんな市街化調整区域といって、建物が普通は建たない或いは農地を保全しなければならないっていう、線引きがされているエリアになります。さっき言った五郎丸東のところは、そこを変えて建てられるようにしようっていう手続きをしているところですね。 イオンっていうのは、あんだけ大きいのを作るってのは本当に難しいかなと正直思います。ですが、娯楽という話でいうと、スタバとかあそこの通りにいろいろ店ができているんですけども、あれも誘導というかここら辺に店ができるのが、いろいろ市としても望んでいること形の成果だと思っていますので、そういったことの積み重ねで五郎丸東のところに、一定規模の商業施設ができるといいなというふうに、市として考えているところです。
鈴木（伸）委員	子育てにお金を投資しない自治体は廃れていくんじゃないかなと個人的には思っていて、子育て環境ということでいろいろ頑張ってくださってはいると思うんですけど、他の自治体にないところで、犬山は里山がすごく充実していて、すぐ近く

	にあって、放置されていて、それを例えば遊歩道として整備するとか、これは具体的なことになっちゃうんですけど、自然公園みたいな、これはお金かかりますけど、要は、子育て環境として、ショッピングモールとかそういう楽しい、今どきの施設もいいけれど、他の自治体にないところで、里山を生かして何かやるとかというような視点で差別化できるかなと思って意見です。
水内副会長	これから頑張っていかなきゃいけないようなことと、やっぱ強みをうまく合わせるような検討が必要なんじゃないかということですよね。
松浦委員	犬山市には、教育、自然、里山といった子育て環境としての強みがあります。これらを個別に捉えるのではなく、一体的につなぎ、子育て世代の移住・定住につながる犬山の魅力として発信していくことが必要だと考えます。
水内副会長	方向性がとても重要だなと思っていて、点としてやっぱ強みがあるだけでは好循環にならないっていうか、教育強いよ、自然あるよ、それ繋がってないんですけど、そこの間をつなげるために何が必要かっていうそういう施策のあり方、循環的にするっていうか、どんどんどんどん良くないふうな方向に持っていくためにはどういうピースが欠けているんだろうかみたいな検証は重要だと思います。それはもう単体でとらえないっていうか、今回の施策もそうですけど。
鈴木（温）委員	関連するかもしれないんですけど、先ほど澤田委員のご意見もちょっと伺って、うちも子ども２人いて、この前夏休みに、安城のデンパークっていうところに行ってきたんですけど、そこはすごくよくて、道の駅も併設されていて、公園になっているんですけど、中にたくさんお店があって食べるところもあるし、子どもが遊ぶアスレチックみたいのもあるし、そんなに広くはないんですけど、子育て世帯には非常にありがたいところで、しかも地元の作られたものがそこで買えたり、道の駅があったりとか、非常に満足度の高い施設だったんですよ。 安城の場合は、デンソーとかアイシンとかトヨタ系の企業があって結構そこはお金出しているんじゃないかとも思うんですけども、他の場所で結構うまくいっているところを参考にして、これからちょっと考えていくってのもあるかなと思うんですね。 明治村とかモンキーパークとか大きい施設はあるんですけど、小規模だけど、子育て世帯が非常に使いやすいところってのはこれからの必要になってくるかなというふうには思います。 やっぱり、あと買い物のことで言えば、犬山は外に出て買い物する人が多いので、その消費と供給の割合でいくと、６割ぐらいで、外に行く方が多くなって、名古屋とか行っちゃうんで、それがかなり県内でも、その割合が低いところになっているので、やっぱりこの中で、買い物とか消費できるようにしていくっていうのはやっぱり、ずっと言われていることですけども、今後も力を入れていく必要があるかなと思います。その時にやっぱりその子育て環境とかと、組み合わせてうまく連携ができるといいかなと思います。
酒向委員	関連することですけれども、住むまちに自治会のことが何も書いてないんですけれど、自治会の再構築とかっていうのは何かありますか。 今町内会とかもどんどん辞めていって、半分近く辞めているんです。そういうところも、今後、このままやめてったらもう成り立たないし、その代わりに何か考えていらっしゃるんでしょうか。
事務局（井出）	犬山市も松浦委員のところで活動されている協働プラザの方で、市民活動だけじゃなくて、地域活動の方も応援してやっていこうと、その中で町内会も支援すると

	いうこともやっています。 市としても、町内会の会長とか役員になると、仕事が多くて大変だわっていうのを少しでも減らすために、広報紙を直接配るようにしたりとか、或いは公園を町内会が管理するのがもう大変だわっていうところは市の方でやりますよみたいな形で少しでもそういう負担っていうのを減らそうとはしています。 その再構築っていうところまではいっていないですけども、コミュニティ施策っていうのは随分前からやっていて、町内会だけじゃなくてその地域コミュニティていうところを支援してやっているというとこですんで、そういったところが、方向性としてやっぱ必要だってことだったらここもちょっと強く書き込んでいく必要と思いました。
松浦委員	地域協働課と協働プラザでは、ここ３年間、町内会長の困りごとを聞く取組を続けてきました。今後は、把握した課題を具体的な解決につなげる段階へ進む必要があり、その方向性を総合計画にも位置づけるとよいと考えます。また、33 ページの重点事業にある「市長との意見交換」については、取組の目的や内容がより明確に伝わる表現に見直す必要があると思います。 健康づくりについても、個々の取組を点で捉えるのではなく、行政、地域の医療機関、協働プラザ、コミュニティナースなどが連携する仕組みとして位置づけることが必要です。また、重層的支援体制整備についても、記載するだけではなく、庁内や地域の関係機関が分野横断的につながり、具体的に機能する内容にしていく必要があると考えます。
水内副会長	はい。ありがとうございます。というところで、ちょっとやっと盛り上がってきたっていう感じなんですが、ちょっと時間になっていますので、ここで１回きりたいと思います。ありがとうございました。

（10）グループワーク（Ｂグループ）

関谷委員	それでは時間もあまりないので、早速始めたいと思いますけど、ぜひよろしくお願いいたします。 非常に多様なデータがいろいろありましたけれども、計画そのものも方向性が決まっているので、その中から、今回のアンケートであるとか、タウンミーティングのいろいろな意見というようなものを踏まえて、それぞれの立場で、ここの分析もうちょっと入れたほうがいいんじゃないかとか、こういった項目を新たに加えたほうがいいんじゃないかなとか、そういったようなご意見、気づいたこと等いただけるといいかなというふうに思います。 よりいい計画に変わっていけるように、現状等を踏まえて、少し分析をして、ご意見等いただければと思いますが、フリーになってもなかなか難しいので、まずは、計画それぞれ基本目標１、２、３と、計画の実現に向けてというふうに素案の中で、柱立てがありますので、基本目標１からちょっとずつ、時間を区切ってお伺いしていくというふうにまずは進めていきたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。 では基本目標１、誰もが育ち、楽しみ、活躍できるまちへという未来に向かっていく部分のところですけれどもいかがでしょうか。はい。お願いします。
佐曽利委員	はい。本当に読み込めていないので、印象のところになってくるのですが、ちょうど真ん中の子育てと女性の活躍応援のところの中で、アンケートの結果の方で、結構子育てや介護、両立支援っていうところで、結構その心配があるというような

	結果も、出ていたかと思います。 　両立っていうようなところの、メッセージというか、そういったところをサポートしていくっていうことも、何か含まれていくといいのではないかなと思ったところがあります。
関谷委員	すみません。具体的に何ページですか？
佐曽利委員	最初の２ページです。基本目標の２ページです。 　資料３－３の２ページ目を開いていただいての、取組の方向性のピンクのところの上から３番目の枠のところの下側の子育てと女性の活躍応援というところでは、そういったワードが入ってきてなさそうだったので、今回多分アンケートで前回なかったアンケート項目として、女性の関係がいっぱい増えておりますので、そこが反映されてくるといいなと思いました。 　望まれているのがやっぱり仕事と両立支援、アンケート結果の 57 ページですかね。一番上のところで、仕事と両立しやすい子育て・介護支援が充実していることというところが、やっぱり結果として出ているので、そういったものが反映されるようなものになっていくといいなと思いました。
紀藤副会長	その反映されるというのが、どういうことをやると反映されるというふうに思っていらっしゃるか。具体的にどういうことがあると反映されるというふうに思っていらっしゃる。
佐曽利委員	ひとまず基本計画の中で、それを話題にできるようにここに入っていると。皆さんが考える幅が広がるかなというところの計画項目として入るといいなという、まだ段階であって多分具体的になってくるともっと両立支援のどういった施策があるといいのかって話になってきちゃうかなと思うので、今の段階的には、そういった視点が含まれるといいなと思ったところになります。 　アンケート結果でもトップだったので、子育ての希望、出産や子育ての希望が実現できるまちという中に含まれてくると、より検討が広げられやすいのかなと思いました。
関谷委員	女性の活躍だとかいろいろなところと重なる部分があるかもしれないんですけど、重なるなら重ねていったほうがいい項目でもあるかもしれないですね。
佐曽利委員	そうですね。 　あと続きになってしまってすみませんがいいですか。 青少年の悩み相談の充実と支援っていうところが、前回とそのまま変更がない状態ではあるんですけれども、アンケート結果からどうちょっと読み取れるのかであったり、アンケート結果にどれぐらいこの 18 歳から若者と呼ばれる世代の意見がどれぐらい抽出されてきているのかが、まだ理解ができてないんですけれども、実際これから未来を担うってなったときにここが、このままでいいのかなっていうのが、気になるというところはあります。きっとまだ速報の状態とのことなので、まだ反映されきってないと思いたいです。
増田委員	私も佐曽利委員と同じようにこの青少年の悩み相談の充実と支援というところが、ちょっと何か物足りないなというのを感じています。このアンケートの方見ても、そこに、例えば最近だと、青少年だとＳＮＳ関係のそういった悩み相談とかも結構増えていると思うんですけど、その辺の対応手法であったり、また、課題の抽出ですね、その辺がアンケートの中でもなかなかできてないのかなっていうところと、実際にどういう悩みを持っていてそれを充実と支援という形で書けるといいんじゃないかなと思いました。

関谷委員	もう少しちょっと分析を深めていくといいというところですね。 ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。安田委員お願いします。
安田委員	資料２－１タウンミーティングの結果の内容を見ていますと、中学校が南部中学校、東部中学校、犬山中学校ということで、実施されておりますけれども、それぞれの意見、それぞれの中学校では意見をまとめられておりますが、これですと、非常にわかりにくくてですね、せっかくですから、この３校をまとめて、今の中学生が、どういうことを感じているかっていうふうに、意見をまとめられた方が、より見やすい資料になるんじゃないかなというふうに思いました。
関谷委員	ありがとうございます。こちらおそらくもう１校まだ残っているので、それが終わってから出るんだと信じていますが。せっかくですから４校まとめて、今の犬山に住んでいる中学生がどのような傾向なっているかというところですね。ありがとうございます。 それを踏まえてまたこの計画の中で、子供たちの視点がどういうふうに入ってくるかっていうようなことも考えられるといいかもしれないですね。ありがとうございます。その他、ピンクのところはよろしいでしょうか。
佐曽利委員	生涯学習のところに繋がるのかもしれないのですが、すごく個人的に気になっているのが、中学校までは市内の繋がりが、子供たちも見えてきていると思うんですが、高校生になると、やはり市外に出る高校生の方が多かったりそのあとの市との繋がり方っていうものが、計画の中に、市外にも出ていくけれど犬山の情報をキャッチできるのかみたいなところが織り込まれていくと、繋がり続けるまちというか、結構社会人になってから学ぶような印象があります。
髙木委員	一回外出てからの方が、意外と内側が見えたりするようなね。
佐曽利委員	見えているのに、市との繋がりの接点がどんなふうに持っていけるのかみたいなものがもう少し明言されていくと、計画として意識を持てるかなってちょっと思ったところがあります。 具体的に、ここの文章がこういうふうになるというところまで、見いだせていないのですが、そういった繋がり、子供から大人まで誰もが、楽しく学び、活躍でき、繋がり続けられるまちみたいな、何かそういった印象が持たれるようなものだと生涯まちのことも学び続けたり繋がり続けられるといいなと思います。
関谷委員	ありがとうございます。中学生までは具体的に教育という分野の中で入ってきていて、大人がイメージできるものって生涯学習に行くっていう、ポイント的にスポット的に高校生をターゲットにしたものが見えてきにくいということですね。
佐曽利委員	そうですね。高校生大学生、その社会人になっていく、市民の方がどう連絡されていくのかというか、繋がっていくかっていうところが、もう少し見えてくるような、伝え方とかがあるといいなと思いました。
関谷委員	ターゲット対象が少し明確になった方がいいということですね。
佐曽利委員	そうですね。６ページの一番上、ピンクの右側の枠なんですけど、時代に合った生涯学習支援体制の確立というところになりますが、市民総合大学というと大人の方が行くような印象がありまして、子ども大学というと中学生までみたいな印象があるので、そういった学びの機会が連絡されるような、出し方をできるといいなと思っております。
関谷委員	キーワード的には連続性みたいな。
佐曽利委員	そうですね。
関谷委員	ありがとうございます。犬山に住んでいる人が小さい頃から大人まで繋がってい

	くことを考えると大事な考えですね。
佐曽利委員	そうですね。中高大どれぐらい市の公式ＬＩＮＥを取っているかなとか、具体的に言うと思ったりするところです。
関谷委員	ありがとうございます。
安田委員	質問なのですが、６ページの赤文字の課題のところで、戦後 80 年以上が経過しというところでこれ赤文字ですから、修正をかけられたということで、それに対する取組の方向性は変わってないということで、課題は変わっているけども、方向性は変わってないということですか。
事務局（浅野）	年数だけを変えて時点修正させていただきました。
安田委員	はい。わかりました。
髙木委員	でも、いろんなところでこういう活動を今されているみたいだから犬山でもそういう経験者っていう方が少なくなられるし、本当の平和の必要性っていうの感じの子が少なくなってきている時代で、そういうのを大事にするからこそ、自分の命の大切さ尊さも知るだろうしね。だからそういうことは本当に必要だと思います。 僕もね、２年に１回ずつ知覧まで行って、見て、お参りしてまた帰ってくるんですよ。やっぱりそういうのは必要だと思いますし、中には、いつまでもそういう引きずっていうような人もいるけど、それで平和の尊さを知るのはありがたいんで、また必要なことだと思いますしね。
関谷委員	ありがとうございます。平和教育とか、平和の考え方というものに関しても、認識できることがあれば分析をしながら、この中に含めていけるといいかなと思います。ありがとうございます。
事務局（古田）	ご指摘の通り、これ単純に年数を変えただけなんですけど、本当 80 年という節目になっていますので、平和行政、実は企画広報課の仕事でして、確かに取組の方向性も変えていかなくてはいけないと正直思っています。 具体的な事業を申し上げますと、今ちょうど髙木委員がおっしゃっていた知覧なんですけど、知覧特攻平和会館の初代館長さんが犬山市ご出身の方ということで、そのご縁を持って、昨年のこの 80 年の節目から、特攻という本当に悲惨な側面もありますので、それを通じて平和教育をちょっと広げていこうっていうのも、取り組み始めているところです。 ですので、今、ご指摘だとかご示唆いただいたようにちょっとこの取組の方向性も少し、そういったものを含める形で変更させていただきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございます。
市長	隣の会場でも具体的な事業がないっていう話が出ていました。だからもっと今から進めていく事業とか取り組んでいる事業は、具体的に示してもらったほうがわかりやすいですって、まさに同じお話ご意見をいただいています。
関谷委員	ありがとうございます。それでは、少し１番目のところから進みたいと思いますので、基本目標２の「産業が支えるまちへ」、水色のところですね、水色のところでは何かご意見ございますでしょうか。 もしかしたら、髙木委員や安田委員がたくさんいろいろとご意見があるかもしれませんけどいかがでしょう。どうぞ。
髙木委員	高齢化や後継者不足が進んでおるっていうのは、犬山に限らずどこの地域もそうでしょうからね。もうそれをいかにって思ったら、難しいネタになると思うんですけど。
関谷委員	実際の感覚として、この方向性のところが赤色で書かれていますけれども、具体

	的な施策に落とし込みそうな感じですか。
髙木委員	いろんな農業体験できる機会ができるのも、面白いでしょうけどね。非農家の方が中にはそういうことに興味がある人も話を聞いているといるし、かといって場所や機会がないし、そういう繋がりがないから、そこでストップしちゃって。でも中には、12、3 年前に農業委員やらせてもらって、そのときの楽田の委員の方が一生懸命熱心で、「髙木君、耕作放棄地をこういう風にやりたいんだわ。」「じゃあ俺機械だけ持ってくわ、俺ちょっと応援するわ。」と言って楽田の方の機械とうちの機械と、あと一般の方で興味ある人と。でもあのとき 15 人ぐらい集まったのかな。 最終的に植えるのも草取るのも収穫も手伝っていただいて、その方々にも最後持っていってもらってという活動をしたことがあって。でも、農業委員も３年任期で解散になっちゃうから、そのあと、こういう活動したけどよかったら継続してくださいってことをやっぱりしなければいけない。
関谷委員	活動を継続していく手法なんかも少し検討できていくといいのかもしれないですね。ありがとうございます。
佐曽利委員	15 ページの左側の下の赤くなっている課題のところの事業者支援及び定住促進の観点から人手を求める企業と働く場所を求める人のマッチングが必要っていうところが、私がちょっと知っている情報ですと、結構シェアリングのサービスの仕組みだったりで、「おてつたび」っていうサービスがあって、お手伝いをしながら旅をして、そこでお仕事をちょっといただきながら暮らすっていうところで、一定期間ちょっと過ごすであったり、今、「タイミー (Timee)」と「アドレス (ADDress)」っていうサービスの掛け合わせで、月額で定住できるっていうサービスを使いながらそこで一定期間お仕事をするっていう、そういうパッケージも出ていたりしていて、今働き手とか、そこもいきなり移住とかお仕事ってなると、なかなかハードルが高いので、マッチングのサービス使いながら、結構行っているみたいなところの、何か具体的に働き手が体験もできながら町の暮らしもできるみたいなところが、こういうところに入ってきたりするとよい。 その１個上の、創業・起業への支援っていうところが、課題のところの方針だったり、内容がそのままなんですけれど、若い人たちが来て、ここで何か新しいことを始めていくってなったときの、結構個人レベルで会社を起こす前のチャレンジしたいっていうことを、実際今どこに相談に気軽に行けるのか、ていうのがちょっと見えづらいなと。 例えば、高校生で起業するとか、大学生で起業するとかってなっても、なかなかインターネットで今いろいろできちゃう時代だとは思うんですが、そういうことを、他市町だとビジネスサポートセンターがあったりするので、身近に何かをはじめやすい、ちゃんとビジネスにつなげていくっていうのとか。愛知県を見ていると、スタートアップとか何かかっこいい言葉でいっぱい出ているので、そういったものが、犬山の中でも起こるような仕組みが入ってくると、出ていかなくても、ここでチャレンジできるよって、若者たちに声がかけやすいなと感じるところもあるので、若者向けのビジネスにチャレンジできるっていうものが含まれてくるといいなと思いました。
髙木委員	そうだね。そういう扉があるといいなって思うね。
関谷委員	ありがとうございます。 農業も商業もそれぞれ人をどういうふうに確保していくかっていうことと農業に携わりたいとか、お仕事してみたいっていうような１歩踏み出すところへの後押

	しをどういうふうに生み出しやすくするかっていうようなところが少しポイントになってくるのかなとお話を伺って思いました。その他ございますでしょうか。
髙木委員	今の話でありますと、今の若い子ってあまりバイトしないのかな。 僕の商売屋とか知り合いのところみんな人がいない人がいないっていう話ばっかり聞いていて。
佐曽利委員	「タイミー（Timee）」で探しているとかは聞きます。 ずっと長く働くっていうよりは、スポットで空いた時間をスッと働けるところを、ネットで探す。
髙木委員	意外とそういうのが多いみたい。仕事を覚えてくれたころにはいなくなる。これもし専業の学校だったら、授業料だけであんたらただお金もらって授業料逆にもらって、それで仕事を覚えたらいなくなっちゃうのみたいな。
関谷委員	だからこそチャレンジのマッチングの部分が大事になってくるのかもしれないですね。それでは安田委員お願いします。
安田委員	同じ 15 ページですけれども、一番下の項目の現状のところで、就職を機に若者が市外へ流出しておりますということでありますけれども、これに対する取組の方向性ということで、企業と就職を希望する人とのマッチングを支援するとありますけれども、なかなかマッチングだけでは、ちょっと足りないと思うんですね。もうちょっと若者が、選べるような企業も増やさなければいけないと思いますし、企業誘致をして、若者が、選べる企業を増やすということを、取組の方向性に含めてもらうといいのかな。 他のところにはその企業誘致のことが書いてありますんでね。ダブるところもあるかもしれませんけれども、その言葉を入れてもいいかなという気はしております。 あと、犬山市の人が犬山の企業に勤めたときの何かこう優遇とかそんなのがあるといいなとかですね、難しいかもしれませんけれども、そういうのもあると市外に出ずに、逆にこう、犬山市に集まってきてくれるとかですね、そういうふうにもなるかもしれないかなと思いました。
関谷委員	いろんな案を出しながら、どこが今の若者にヒットするとか、どの人にヒットするかっていうようなことも、考えていけるといいかもしれないですね。
安田委員	あともう１つ、犬山市の学生ですね、小中学生、高校生もそうですけれども、犬山市にどういった企業があるのかっていうのを、おそらく知らないと思うんですね。ですから、子どもの教育の中に、そういう犬山市の企業のことを分かってもらえるような学習をもし盛り込められるといいかなと思いました。
関谷委員	この辺りは他の施策との連携も含めて、いろいろと横断的に見ていけるといいところかもしれないですね。ありがとうございます。 ただちょっと時間もなくなってきたんですが、３番目の人にも地球にもやさしいまちへで、緑色のところはいかがでしょうか。まちづくりだったりとか、整備的なものですとか、備えに関わるところとかは、随分と大きく変わってくるかなと思いますが。佐曽利委員お願いします。
佐曽利委員	空き家のことについて、19 ページにあります空き家の適切な管理だけなのか他にもあるのかなんですけども、適切な管理をしていても、それは増える一方だと思うので、これがどう管理と活用というか、どういうふうに、例えば、何かしらもう少しこう手があるみたいなところがうたわれていた方が、取り組みを考えていけるのではないかなと思います。

	やっぱり、今だと若者の居場所だったり、やっぱり交流する場所っていうところの、市内にいろんな目的に決められた施設があると思うんですけれど、身近に使える場所があるけれど、自分が使いたい目的では使えないみたいなことが起きてしまうこともあると思うんです。そういったところで、スペースを持つか、居やすいっていう取り組みがどこに該当するのかが、ちょっと空き家で気になっていたのもあるので、発言をしております。
関谷委員	この辺りは、もしかしたらその若者をターゲットにしていくなら、ピンクあたりになるかもしれないですし、この緑のところで管理しながら、例えば、防犯だったり、まちの安全性みたいなものになると、緑になるかもしれないですね、どういった目的で記載するかによって、重ねて書いてももちろんいいと思うんですが、そういった意見があったということはすごく大事なことだと思います。ありがとうございます。
紀藤副会長	これ基本計画で素案なので、まとめ方としては、上手にまとめてあるなと思って見ているんですね。佐曽利さんが言われているような、もっとすごい具体的なところは、これには書けないんじゃないか。 だから、今安田さんが言われたような企業の紹介とかね、それは本当に必要だと思うんですけど、それは何かこういうところじゃなくて、別でここから次に出て行くステージの中で、やっぱりきちっと、ここに放り込むとね、多分ぐちゃぐちゃになっちゃって大きなことと、小さなことがね一緒にっていうのは難しいと思うので、これはこれで僕は何か上手にまとめてあるなと思いました。 あとその具体策をその企業の紹介とか、空き家の管理でも、それは確かに空き家って言ったら電気もガスも水道も使えてないですから、それを使おうと思えば、誰かに貸すとしても、電気ガス水道の開栓をしなくちゃいけないし、掃除もしなくちゃいけないとかいろんなことが出てくるので、だから、僕素案としてはこれでよくてあと佐曽利さんが言われたような、個別のやつは、全部ができるわけじゃないですけど、これはだけはやりたいとかね、そういうことは先ほどの戦争教育でもそうですけど実際に今年犬山市は、南部公民館でイベントをされたんですね。あれ何でしたかね。
事務局（古田）	拉致被害です。
紀藤委員	そうですね。課長さんもいたとは思うんですけど。私もあれ見に行って、やっぱりあれに参加する人が少ないんですよ。だからこうやって、ここでいいことだっていうんだけど、それにどうやって参加してもらえるかなというそちらの方がね、南部公民館でせっかくああやってね、大きくやったのに来る人が少ない。 だから、ああいうことやろうってことはいいんだけど、どうやって人を集めるかって何かその１歩先までどうやって考えるのかなとか。だから本当に戦争の教育はもう絶対必要なんですけど、それを具体的に誰を連れてくるとかね、おっしゃっていることはすごくいいことなので、それが何かこの素案とは別のところでここから生まれてくる具体的なことはこうですよってこれが出ればいいのかなと思います。
関谷委員	素案の中に文言として入れたほうがいいこととか、ここから具体的な計画に実効性を持たせるためにはどういうふうにしていったらいいかっていうようなことはこの後、この意見を吸い上げていただいて事務局にお返しする形にはなるかと思いますけれども、全体通してやっぱり計画が単発、縦割りで済むものではなくて、若者というキーワードで横で見てみたりだとか、繋がっていくとか継続性とか、何かこう横軸でも見なきゃいけない部分っていうのが、確かにあるなというふうに皆さ

	んのご意見を聞いて思いました。 なので、ちょっとまとめのところでは、全体通してこういろんなことが出たんだけれども、縦だけではなく横でもきちんと計画が繋がるようにというような報告を、最後させていただきたいというふうに思います。
紀藤副会長	高齢者でも他の地区、例えば近隣市町のことを知っている高齢者なのか、自分の住んでいる楽田だったら楽田のことしか知らないのか、そういう方たちがアンケートに答えるわけですね、ということはかなり偏った意見が出ているのでそれをどうやってバランスよくやるかということが重要になると思います。だからその偏ったアンケートが集まってきたやつを、これをどういうふうに評価して、市民全体の意見としてやっていくということが、僕はすごく大事だと思います。
関谷委員	ありがとうございました。すみません、皆様の意見を十分に吸い上げられなくて申し訳ないです。また何かありましたら、事務局に伝えてください。ありがとうございました。

（11）全体

鈴木会長	皆さんどうもありがとうございました。 短い時間の中でしたけども、重要なキーワードも出されていたと思うので、次につなげていくようなポイントもあったように思いますので、ありがとうございました。 それでは時間もない中ですけども、Ａグループの水内先生から少しご紹介いただけたらと思います。 よろしくお願いします。
水内副会長	活発な意見交換を行われまして、まずこの５年を経て、すでにたくさんの取り組みが始まっている。 それがまだこの計画に反映されていないので、積極的に盛り込んで、計画に反映していくべきじゃないかというのは基本的なご意見としてありました。 それから、犬山の強みで挑戦すべき点を乗り越えるっていうところもできるんじゃないか。 例えば、里山の活用づくりとそれによって教育の質を高めるとかそういうこともありますし、例えばその施策を点じゃなくて繋げていくことで、好循環を生み出すっていうこともできるのじゃないかということで、例えば教育の強さってのが、移住者の増加に繋がりますよね、それがまた教育を強めていく。そういった好循環が生まれるべきですが、そこにかけての教育の強さが、移住の施策に繋がっていないから、何かと何かの間の点が抜けているってことで、循環が起こらないことがあるとすると、その１つ１つのバラバラな施策ではなくて、そういうのを繋げて考えていくってことが重要じゃないかということで、これ医療についても、言えるのではないかってことがありました。 それから若者の意見を今やっているんだけど、もっと積極的に聞く場所を作ってはどうかとか、それから消費ってことに関しても、犬山市内で消費できるようにして市内で消費が落ちていくっていう仕組みづくりも重要ではないかなという話がありました。 それから子育てに関係すると小規模だけれども、子育て世代が使いやすいような施設、そんなに大きな大したものじゃなくても、そういうものが充実していくとよいのでないかというような話がありました。

	それからアンケートに関しては、クロス集計とかうまく使いながらそれこそ犬山市の今やはりご高齢の方々の回答が多いので、少し偏りがあるんじゃないかと、その偏りをできるだけないように、きちんと見られるようにクロス集計などうまく使いながら若者の意見もきちんと見れるような方法をとるというような話もありました。 ちょっと漏れているところもあるかもしれませんが、そのような意見が出されました。
鈴木会長	はい。ありがとうございました。 それでは、Ｂグループの関谷委員よろしくお願いいたします。
関谷委員	よろしくお願いします。 Ｂグループも非常にたくさんの意見が出ましたけれども、まとめると施策として出ているものが、計画になり実行に移されていくタイミングでは、どう、その実効性を高めていくかというようなところでは、やはり取組の方向性の中にある文言として入れておいていただくということも大事なんじゃないか、具体的な施策を盛り込むことは難しいんですけれども、単語として入れていく。 例えば、教育のところでもそうなんですけど、生涯教育は子どもから大人までというところが、１つの１本の筋としてあるはずなんですけれども、例えば、高校のところが少しやっぱり欠けているんじゃないか。でも教育ってのはずっと繋がるものだよねっていうようなところで、ただそれをじゃあどういうふうに市の計画の中に反映させていくかというところでは、やっぱり文言入れておく必要があるんじゃないかというようなところが１つあります。 こういうように、計画の中にもいろいろあるんだけれども、先ほども水内委員からも話がありましたけど、縦にあるものと横にあるものっていうそれぞれを見ていかなきゃいけないなっていうようなところが、総じて出てきた意見というふうに思いました。 暮らしの連続性というようなところをしっかりと考えられた計画になるといいなというようなところはみんなの願いになっています。 以上です。
鈴木会長	ありがとうございました。 本来であれば、細かくご発言いただいた内容とか、その趣旨とか背景とか全部ここで確認をしていきたいところなんですけれども、今回は時間も限られていますし、それからいただいてもここで実はそれをうまく処理するということも難しいもんですから、今日はひとまず皆さんから出された意見を事務局でしっかりと押さえていただいて、次につなげていくヒントにさせていただこうというふうに思います。 そこで、今回皆さんいろんな調べをされたりとか分析をされて臨んでいただいたかと思いますので、今日の会議の中で出し尽くせなかったところのご意見は、ちょうど 1 週間後９月４日の金曜日までに事務局の方にメールでファックスでもメモでも結構ですので、お出しいただいて、今日の発言の補足をしていただけるようにご協力いただけますでしょうか。 ではそのようによろしくお願いしたいと思います。 それでは、最後の次第の７．その他というところに移りたいと思います。 こちらの方、事務局の方からお願いいたします。
事務局（古田）	次回の会議の開催日程でございます。

	第３回になるんですけれども、10 月 30 日の金曜日に開催をさせていただきたいというふうに思っております。 この日の夜の時間ですが、今日はちょっと早く始まっていますが、通例ですと７時からになりますけれども、また時間が確定いたしましたら、改めて開催通知の方をお送りさしていただきますが、開催日といたしましては 10 月 30 日の金曜日ということでご了解をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
鈴木会長	はい。ということで、またもしご欠席される場合には事前に委員のご意見を頂戴して、ここで紹介をして、しっかりと受けとめていくという手続きは間違いなくとるというようにしたいと思いますので、その辺も含めて、ご了解いただきたいと思います。 それでは本日の会議はこれで以上となります。 皆様どうもありがとうございました。